

令和3年度

運営に関する計画

大阪市立森之宮小学校

令和3年4月16日

平成29年度から令和3年度までの5年次計画

学校の運営に関する4年次計画

校訓

こころとからだを きたえ たくましく
めざす子ども像

- 深く考える子
- 豊かに感じる子
- 力を合わせる子
- 明るくはきはきした子
- からだをきたえる子

学校教育目標

子どもが心豊かに力強く生き抜き 未来を切り拓く力を備えるようにする
～豊かな心 と 豊かな表現～

- 子どもたちが全校の場で 教室の場で高め合う指導を
- 教科・領域の中で、考える 書く ききあう 話し合う 深く考える指導を
- あらゆる教育活動の場で、リーダーシップとフォロアーシップの育成の指導を

◆ 学校運営の指針「基本となる考え方」

＜心豊かに力強く生き抜き未来を切りひらく力の育成＞

1. 学校教育目標
2. 重点目標

こころとからだをきたえたくましい子を育む

めざす子ども像



一人一人を大切にする“人権教育”を基盤とした学習活動の展開

大阪市立森之宮小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

3. 学校運営の中期目標

◆ 現状と課題

【児童の全体的な状況】

- 明るく素直でおおらかで、課題解決に向けて、ねばり強く取り組む意欲・態度が育ち定着しつつある。
- 自分の考えや思いを、多様な方法で表現できるようになってきているが、社会性での経験不足を感じられる面もある。
- 道徳心・社会性では、さまざまなアンケート結果から、9割を超える児童が「学校・自分の学級は楽しい」と回答しており落ち着いた学校生活を送っている。

【教科に関して】

- 学習規律が確立され、全国学力学習状況調査でも大阪市や全国正答率を上回り、無解答率も低く学習の定着度が高い。
- 授業で理由が分かるように気を付けて書くようにしているという意識は高い。しかし、図やグラフを分析したり根拠や理由を明確にしたりして記述することに課題がある。
- 今後も主旨をまとめる活動や自分の考えや思いを書く活動等で課題別や習熟度別の少人数指導を取り入れて、基礎的基本的な学力定着の一層の向上を図っていく。

【児童の生活・健康体力等の状況に関して】

- 家庭地域と連携しながら、生活指導の充実に取り組んでいる成果として、基本的生活習慣が確立されている。
- 朝食をとる、きまつた時間に寝る、学校の学習はきちんとしようと、考える児童が多く規範意識も高く、自尊感情は育ってきている。豊かな心豊かな表現を育む体験学習の成果は一定表れている。
- 健康・体力の点では、全国体力・運動能力、運動習慣調査において数種目の項目で全国平均を上回る結果を得ている。
- 運動面では全面芝生の運動場でがを気にすることなく、元気いっぱい活動しているので、「運動が好き」の割合も向上している。
- また、保健室の来室も少なく、全員出席（欠席0の日）が50日以上ある。給食指導などの日々の指導において栄養指導を行い、残食率はほぼ0%である。

◆ 今後の取り組み等

- ・筋道立てて考えること、論理的な思考力・表現力の育成を「学級やグループで自分たちが建てた課題の解決に向けて、ＩＣＴ機器を活用して、情報を集めたり協働学習で話し合いをしたりしながらより良い意見考え方を整理して発表する」（アクティブ・ラーニング）に継続して取り組む。
- ・道徳心・社会性の育成では、学校行事を含め、すべての教育活動において道徳価値を位置づけ実践する。読み物教材については、道徳価値が一人一人の内面にせまるものを精選し活用していく。
- ・健康・体力保持増進では、家庭とも連携をとりながら、食育を推進し、健康な食生活への意識づけを行う。また、外遊びを奨励すると同時に、日常的に運動するのが好きな子どもを育成する。

◆ 中期目標

【視点 子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- I 規範意識の確立、いじめ・問題行動に対応する制度の確立
- II 防災、安全教育の推進
- III 道徳の時間を要とする道徳教育の推進
- IV 人権を尊重する教育の推進
- V 図書館活性化、家庭学習の支援
- VI 豊かなこころと豊かな表現を育む体験活動

（施策1 施策2 施策3）

- 人権・いじめ・国際理解の教育では、それぞれの課題において重点的に取り組みをすすめていく。
- 防災・安全教育においては、関係諸機関と連携し取り組みを行い、合わせて保護者への啓発も行う。特に防災、安全教育では座学を授業に位置づけ行う。
- 道徳教育の推進では授業だけでなく、全体計画に従って学校行事、総合的な学習、地域との連携なども含めて取り組みを強化する。
- 互いに認め合うことのできる縦割り活動の充実、互いに助け合い、高め合うことのできる係・委員会・クラブ活動等の特別活動の工夫と充実により質の高い集団作りをめざす。
- 自主的に読書や学習に取り組む児童を育成する。
- 関係機関との連携や地域、保護者、ボランティアの協力を得え、多様な体験、本物にふれる体験など感性に訴える取り組みを学習計画に位置づけ、教育活動をさらに充実させる。

【視点 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

I 言語活動の充実、論理的思考力の育成

II 社会の変化に対応する力

大阪市立森之宮小学校 令和3年度 運営に関する計画

III 課題を発見し解決する力

IV 体力・運動習慣・運動意欲の向上

V 健康に関する現代的な課題への対応

VI 環境美化や健康な生活習慣の確立

(施策5 施策6 施策7)

- 言語活動の充実「自分の思いや考えを書く活動の工夫」「思考力・判断力・表現力を高める交流の場の工夫」に取り組んでいく。
- 本校の実践を継続し、論理的な思考力につながる言語活動の充実を今後も図っていく。
- 体育科の授業だけでなく、学校生活全般で取り組み、「運動好き・体を動かすのが好き」と回答する児童の割合を増加させることを重視していく。
- 全面芝生の運動場を活かし、外遊びの好きな児童を増やし、心も体も健全に育っていく教育を進めていく。
- 健康面では日々の「ふり返りカード」をいかし、自分の生活を見直し、自分の体を見つめる取り組みを行う。体作りの基礎として食育を位置づけ、健康な体作りをすすめる。

【視点 その他】

I 幼保小中一貫した「学び」をめざす異校園種との連携

II 校内研修の充実、可能性を伸ばす指導法の工夫、改善

(施策4 施策8)

- 子どもたちの健全育成に地域縦がかりで取り組む。幼小、小小、小中等の異校園種間連携を継続し、幼小中一貫した「学び」をめざす。この成果を地域保護者関係機関に発信する。
- P D C Aに則った各種全体計画、年間計画の実践と検証する。
- 全教員による研究授業や工夫を凝らした研究討議、教科に関する講演会等、若手教員の育成に取り組みながら、授業力アップをめざす。
- 指導した専門家による授業を参観したり学校外の「新しい知識や考え方」に接したりすることは教員への刺激となり、教師力アップや学校力へつながっているため、今後も継続していく。

4 中期目標の達成に向けた年度目標

全市共通目標

【視点 子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ・令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ・令和3年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を80%以上にする。
- ・令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させる。
- ・令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。

【視点 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・令和3年度の小学校学力経年調査（中学校チャレンジテスト）における標準化得点を、前年度より向上させる。
- ・令和3年度の小学校学力経年調査（中学校チャレンジテスト）における正答率（得点）が市平均（府平均）の7割に満たない児童（生徒）の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- ・令和3年度の小学校学力経年調査（中学校チャレンジテスト）における正答率（得点）が市平均（府平均）を2割以上上回る児童（生徒）の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- ・令和3年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より1ポイント増加させる。
- ・令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、全ての項目で全国平均以上ではあるが、（反復横跳び）の平均の記録を、前年度より1ポイント向上させる。

学校目標

視点1 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 1 全教育課程を道徳・人権教育の視点をもって行い、多様な文化・価値観があることを体験的に知り、認め合い高め合う児童を育てる。
- 2 道徳の全体計画・各学年年間指導計画にしたがい、すべての教育活動において道徳性・社会性を高め、実践できる児童を育成する。
- 3 学校生活の中で児童に生活をふりかえらせ、家庭・地域と連携を深めて、規範意識を確立させる。
- 4 警察・地域・PTAとの連携のもと、防災・安全に対する意識を高め、実践できる児童を育成する。
- 5 合理的配慮の主旨を大切にし、支援を要する児童に対し保護者と連携して特別支援教育の充実を図る。

- 6 自主的に読書や学習に取り組む児童を育成する。
- 7 大阪市の教育財産の活用や企業と連携した専門家の招聘等「本物に触れる」体験を通して感性に訴える取り組みの充実を図る。

視点2 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 1 各教科において言語活動の充実を図ることで、児童の学力を高める。
- 2 英語活動・情報教育を通してコミュニケーション能力の充実を図ることで、社会の変化に対応する力を育む。
- 3 自ら設定した課題の解決をめざし、互いの意見を交流する中でより良い意見考え方を整理して発表する力を伸ばす。
- 4 体育科学習を核に仲間と豊かに交流し、運動の楽しさや喜びを味わい、健康の保持増進と体力の向上を図る。
- 5 健康に関する啓発活動を行い、自らの健康に留意し、病気にかかりにくい環境について考えることができる児童を育成するとともに、家庭を含めた健康への意識化をはかる。
- 6 自らの学習環境の整理や美化に自覚を持って取り組むとともに、望ましい生活習慣について考え実行する児童を育てる。

視点3 【その他（学校独自の視点）】

- 1 全教員が年1回以上研究授業（公開授業）を実施し、研究充実のため、研究支援事業等の大阪市の施策や外部団体の学校支援事業を活用する。
- 2 全体計画・各学年年間計画のよりいっそうの充実をめざし、P D C Aサイクルに則り検証する。
- 3 校内研修を活性化し、今日的な課題に対応した校内研修を行い、相互研修を深め、児童理解や実践力を高める。
- 4 幼保小、小小、小中等の異校種間連携を継続し、幼保小中一貫した「学び」をめざす。
- 5 きめ細やかな情報の発信と情報の受信を進める。

◆ 本年度の自己評価結果の総括

令和3年度 運営に関する計画 5年次

評価基準	4：目標を上回って達成した 2：取り組んだが目標を達成できなかった	3：目標どおりに達成した 1：ほとんど取り組めず目標も達成でき
------	--------------------------------------	------------------------------------

年度目標	達成状況
<p>【視点 子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 令和3年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を80%以上にする。 令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させる。 令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。 <p>学校の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 全教育課程を道徳・人権教育の視点をもって行い、多様な文化・価値観があることを体験的に知り、認め合い高め合う児童を育てる。 道徳の全体計画・各学年年間指導計画にしたがい、すべての教育活動において道徳性・社会性を高め、実践できる児童を育成する。 学校生活の中で児童に生活をふりかえらせ、家庭・地域と連携を深めて、規範意識を確立させる。 警察・地域・P T Aとの連携のもと、防災・安全に対する意識を高め、実践できる児童を育成する。 合理的配慮の主旨を大切にし、支援を要する児童に対し保護者と連携して特別支援教育の充実をはかる。 自主的に読書や学習に取り組む児童を育成する。 大阪市の教育財産の活用や企業と連携した専門家の招聘等「本物に触れる」体験を通して感性に訴える取り組みの充実を図る。 <p>《指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内アンケートやふり返りカードで「自分のしたことをふり返ったり友だちのよいところを見つけたりして、なかよく生活をしたい」の肯定的な回答80%以上を継続する。 	

令和3年度 運営に関する計画 5年次

- ・職員会議等を活用した児童理解の研修を月1回程度開き情報を共有化し、指導支援に生かす。
- ・校内アンケートや全国学力学習状況調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定的な回答90%以上を維持する。
- ・「ふり返りカード」を活用し、自分の行動を振り返るとともに、基本的な生活習慣が身についているか、児童に指導すると共に保護者への啓発を行う。
- ・「ふり返りカード」や学校評価アンケートの『生活について』で肯定的な回答80%、全国力学習状況調査質問紙「学校の決まりを守っている」の肯定的な回答80%以上を継続する
- ・朝の会や終わりの会で自分の言動を振り返ったり、友達と認めあったりする場を週1回以上設定する。
- ・行事や活動、配布物、学校だより、学年だより、掲示物等で児童のがんばりやよさを認め合える場を年間10回以上工夫する。
- ・ふり返りカード等で、「友だちと協力できた」や「友だちのよさをみつけることができた」の肯定的な回答を80%以上にする。
- ・受け継がれ成果の上がっている実践等を継続し、異年齢の中でもよりよい関係性を築くことができる力を育成する。
- ・校内アンケートや全国学力学習状況調査質問紙「自分には良いところがある」「学校に行くのは楽しい」「人の役に立つ人間になりたい」の肯定的な回答80%以上を継続する。
- ・警察署と連携した交通安全教室を年間1回以上、長期休業前に講話及びプリント等を配布し、学期に1回以上防犯意識を高める指導を実施する。
- ・「おはしも」のねらいを明確にした訓練を年間3回実施し、避難訓練の事前及び事後指導や学級指導で、学年の実態に応じた指導を行う。
- ・避難訓練において土曜授業等を活用し、保護者と児童がともに学ぶ機会を設定する。
- ・個別の教育支援計画書、指導計画支援書を、支援を要する全ての児童に対し保護者と連携して作成して共有化し、理解を深める児童理解研修を月1回程度行う。
- ・朝のスキルアップタイムを週1回、学びのサポーター等を活用した放課後学習指導を年間20回以上実施したり、EC配信プリント等を活用したりして自主的な家庭学習を支援する。
- ・ふり返りカードや学校評価アンケート等で家庭学習（宿題）や自主学習をしていると肯定的に答える児童を80%以上とする。
- ・図書室のバーコード化に取り組んで整備するとともに開館を週7回以上確保する。
- ・「読書タイム」を年間25回以上実施する。図書ボランティアによる活動を充実させる。
- ・ふり返りカードで「本を読むことが好き」と肯定的に答える児童を80%以上とする。
- ・上記体験学習を全学年で年間延べ50回以上実施し、学校公開等で地域保護者の参加を促して地域保護者と連携した「豊かなこころと豊かな表現」の推進を図る。
- ・事後のアンケートやふり返り等で、「体験学習の楽しさをを感じた」の肯定的な回答を85%以上にする。

令和3年度 運営に関する計画 5年次

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① (施策2 道徳心社会性の育成：人権を尊重する教育の推進) (施策6 國際社会において生き抜く力の育成：多文化共生教育の推進) 【人権教育の充実】 「人権教育年間計画」を基に副読本や人権教育「読本」・実践事例集、メディア教材などを活用し、なかまづくり、平和学習、国際理解、特別支援、性に関する教育などについて指導し、多様な文化や価値観があることを知るとともにグローバルな世界観の基礎を養う。	
指標 • 人権教育実践報告会や性に関する教育実践報告会を年間2回以上実施する。	
取組内容② (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現：いじめ・問題行動に対する制度の活用) 【児童理解】 • 児童理解研修会を実施し、児童の課題と変容について共通理解できるようにする。 • 職員会議や職員朝会などの場を活用した児童理解についての情報交換を月に1回以上行い、教職員間での共有化を図り、指導・支援に生かしていく。	
指標 • 年間前期・後期1回と年間2回以上児童理解研修会を実施する。 • 学校評価アンケートや全国学力学習状況調査の「いじめはどんな理由があってもいいことだと思う」の肯定的な評価を90%以上を維持する。	
取組内容③ (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現：不登校・児童虐待などの課題への対応) 【基本的生活習慣の確立】 基本的な生活習慣を身につけられるよう、登校指導や朝会、日々の生活の中で声をかけたり指導したりして、自己の成長や健康について意識を高め、よりよい生活を築くことができるようする。	
指標 • 「ふり返りカード」を活用し、自分の行動を振り返るとともに、基本的な生活習慣が身についているか、児童に指導すると共に保護者への啓発を行う。 • 「ふり返りカード」や学校評価アンケートの『生活について』で肯定的な回答80%、全国学力学習状況調査質問紙「学校の決まりを守っている」の肯定的な回答80%以上を継続する	
取組内容④ (施策2 道徳心社会性の育成：道徳教育の推進) 【道徳教育の充実】 • 道徳の全体計画及び別葉をもとに児童が考え方を互いに交流することができる授業実践を行う。 • 式、全校朝会、集会、朝の会・終わりの会、行事や活動、配布物、学校だより、学年だより、掲示物等で児童のがんばりやよさを認め合える場を工夫する。	
指標 • 低学年15項目、中・高学年20項目以上の価値項目を指導し35時間の時数を確保する。 • 式、朝会、集会、終わりの会、学校だより・学年だより等、また教室や階段の学年掲示板や玄関掲示などを通して児童や保護者にがんばりやよさが分かるように児童一人に対して約10回以上行うようにする。	

<p>取組内容⑤（施策2 道徳心社会性の育成：キャリア教育の充実）</p> <p>【自尊感情・自己有用感・集団育成】</p> <p>互いに認め合う集団活動をめざし、助け合い、高め合うことのできる学級活動、児童会活動・クラブ活動・行事等の特別活動の工夫と充実により、児童の自尊感情や自己有用感を高め質の高い集団作りを行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・年間指導計画や活動計画をもとに異年齢のよりよい関係を築くことをめざし学級、児童会（委員会 代表委員会）、クラブ活動や学校行事を実施している。・校内アンケートや全国学力学習状況調査質問紙「自分には良いところがある」「学校に行くのは楽しい」「人の役に立つ人間になりたい」の肯定的な回答を80%以上継続する。	
<p>取組内容⑥（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現：防災・減災教育の推進、安全教育の推進）</p> <p>【防災教育・安全教育と健全育成の推進】</p> <p>消防署や警察署と連携し、防災教育、安全教育、健全育成の取り組みをすすめ、災害時・緊急時に適切な行動ができるようにする。PTAや地域と連携し、防犯教室や安全教室などを通じて全教育に対する意識を高める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・警察署と連携した交通安全教室を年間1回以上、長期休業前に講話及びプリント等を配布し、年間2回以上防犯意識を高める指導を実施する。・「おはしも」のねらいを明確にした訓練を年間3回実施し、避難訓練の事前及び事後指導や学級指導で、学年の実態に応じた指導を行う。・避難訓練において土曜授業等を活用し、保護者と児童がともに学ぶ機会を設定する。	
<p>取組内容⑦（施策2 道徳心社会性の育成：インクルーシブ教育システムの充実と推進）</p> <p>【特別支援教育の充実】</p> <p>特別支援教育の充実をはかる児童理解に関する研修会を実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・個別の教育支援計画書、指導計画支援書を、支援を要する全ての児童に対し保護者と連携して作成して共有化し、さらに指導計画の評価を行う理解を深める児童理解研修を月1回程実施する。	

令和3年度 運営に関する計画 5年次

<p>取組内容⑧ (施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援: 家庭教育や子育ての情報提供や学習支援) (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組: 放課後を活用した学習機会の支援)</p> <p>【家庭学習や自主学習の支援】</p> <p>自主的に学習に取組む児童を育成する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">朝のスキルアップタイムを週1回、学びのサポーター等を活用した放課後学習指導を週1回(各20回以上)実施したり、EC配信プリント等を活用したりして自主的な家庭学習を支援する。ふり返りカードや学校評価アンケート等で家庭学習(宿題)や自主学習をしていると肯定的に答える児童を70%以上とする。	
<p>取組内容⑨ (施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援: 学校図書館の活性化)</p> <p>【読書活動の支援】</p> <p>自主的に読書に取組む児童を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none">図書室のバーコード化を有効利用することでさらに充実して図書館運営をすすめるとともに、図書館の開館回数を週8回以上確保する。「図書館記録表」において図書館活用状況の実態の把握につとめるとともに来館者数を80%以上とする。「読書タイム」を年間25回以上実施する。学校図書館補助員や図書委員会児童による活動を充実させる。ふり返りカードで「本を読むことを楽しんでいる」と肯定的に答える児童を80%以上とする。	
<p>取組内容⑩ (施策2 道徳心社会性の育成: キャリア教育の充実) (施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援: 産業界との連携と学習資源の有効利用)</p> <p>【豊かなこころと豊かな表現】</p> <p>大阪市の教育財産の活用、地域・他の諸機関や企業等の専門家との連携を深め、講師として招聘した「本物に触れる」体験活動など、「キャリア・パスポート」の取り組みを通して児童の感性を育む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">上記体験学習を全学年で年間延べ80回以上実施し、出前授業等で地域保護者の参加を促して地域保護者と連携した「豊かなこころと豊かな表現」の推進を図る。事後のアンケートやふり返り等で、「体験学習の楽しき豊かさを感じた」の肯定的な回答を85%以上にする。	

4年次 令和2年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と課題

① 人権教育の充実

本校の人権教育は特別の教科「道徳」との関連もふまえて年間計画を立て取り組みを行っている。

さらに、年間計画だけにとどまらず、クラスの実態に必要な取り組みをその都度機会を逃さずに実践をすすめることができた。

このことは、児童の実態や起こる課題と問題点を教職員が細やかに把握できるように児童理解に努めているからだと言える。

大阪市から発信された取り組むべき課題について、学校独自としての取り組みとその取り組みを通して各学級での実践も広がっている。コロナ禍の中ではあるが、感染者や医療従事者やその家族または、一部外国人へのなどへの差別的な事象が取り沙汰されている今だからこそ、教職員全体で協力しながら、感染対策を講じ「なかま集会」に取り組んだ。

前期での取り組みは、「いじめを考える日」を意識し、学年当初に各学級で「いじめ」について発達段階に応じた取り組みを行うことや取り組んだことを持ち寄り、森小として全校でなかまの大切さを考え合う機会にすることことができた。

さらに、友だちとの関わりの中で、自分自身が感じた喜びを書いたものを掲示した「森小友だちの木」や異学年で協力して作る「友だち俳句」などを作成し、それを児童らがいつも見ることができる場所に掲示することで、学校全体が「なかま」であることを意識づけていくことができている。各学級でのなかまづくりと並行して小規模校の良さを生かした異学年での細やかな交流によって学年の枠を超えて、お互いを大切に尊重していくこうとする態度が身についている。

新渡日の外国人児童については、学級を中心に理解と支援をすすめる実践が行われてきた。

また、本校では個別に日本語指導を行っていることで、学習面や生活面で落ち着いて過ごすことができていると言える。ただ、日々の取り組みの中で保護者への対応については、環境面において今後順次整備していく必要があると言える。

「なかま」集会の後期においては、外国人児童にスポットを当てて取り組んでいくことができた。今年は集会活動の形態が難しいことから、取り組み方法を工夫した。ICTを活用し事前に映像化したものをみんなで共有しての活動とした。ゆっくりと視聴したり、何度も見直したりできたので利点も多かった。渡日のなかまのがんばりや努力、成長を学校全体で感じ、喜び合うことができた。お互いの文化や習慣について触れ合うことができるをめざし、今後もこのような取り組みを続けていきたい。このような地道な活動が、多様な文化や価値を尊重し認めあえるなかまづくりにつながると考える。

その他、7月・8月には「平和週間」を設けて各学級での取り組みを行った。1年間を通して「平和」学習に取り組んだ学年もある。人権教育教材集や読み物、ピースおおさかなどの視聴覚教材を活用しながら、今ある「平和」の大切さを考え合い歴史から学ぶ平和学習に取り組んだ。

児童らは身近なことにも敏感に目をむけ、遠い国で起こっている紛争についてだけではなく、まわりのなかまを理解していくことも平和であることに気づいていた。さらに、今年は8月6日が課業中となったので、広島平和記念式典を視聴することができ、「ヒロシマ」について考える機会をリアルタイムでもつことができた。

このような実践を通して、平和を願う気持ちを文章化したり、絵に表したりと多様な表現方法も用いながらお互いの考えを交流することができていたと言える。表現したものについては、学級内や廊下などに掲示をして、お互いの考え方や大切にしていることについて共感しあえる工夫をしている。お互いの考え方を分かり合うことで、自分の考え方もフィードバックされることとなるように工夫している。また、学習したことをもとに取り組んでいる作文・詩、いじめ防止キャッチコピーなど大阪府・大阪市における作品募集のコンクールなどにも全学年が出品することもできている。教職員の研修の面では、地域人権推進委員会などの企画した、人権教育についての研修に積極的に参加した。(オンラインなども含む) 校外で行われる研修会、区の実践交流会にも参加し研修に努めている。

大阪市人権教育研究大会や大阪市外国人教育研究会他などの学校外での報告・実践交流をもって啓発活動を行っている。

② 児童理解

年度当初5月と、学年末の3月にひきつぎの機会との意味で、一年間の様子や変容など連続した記録綴を用いての児童理解の全体会の場を設け、多面的な児童理解に努めている。今年も前期・後期に分けての児童理解研修会を実施し共通理解の場を設けてきた。特別支援学級の児童についての学習の様子を映像にて報告するなど細やかな児童理解に努め共通理解の場を大切にしてきた。

さらに、月に一回の情報交換の場も大切にし、児童の変化や課題を職員全体で共通理解できるようにしてきた。

ただ、2年生から以上の学年が、6時間目まで授業がある日がほとんどで週授業時数の増加に伴い、研修会を開く時間の確保が困難になっている。そのことを鑑みて、今後は児童理解研修会の資料の特別支援学級児童についての事項は早めに入力し、研修会までに全員が読んでおくことにし、あらかじめ個々の児童の特性を把握した上で、ひまわり学級担任からの様子を聞き取るようにしていくことでより一層の共通理解を深めていくことができるようにしていきたいと考える。

「いじめ」アンケートについても、初期対応を大切にするために、聞き取りを徹底していくこととともに、学級での取り組みを細やかに行ってきました。その結果、児童らは「いじめはどんな理由があつてもいけないことだ」と、100%肯定的評価になっている。

学級づくりの中において配慮を要する子を中心としたなかまづくりに取り組んでいる。学級担任や教職員の日々の声かけや配慮を大切にしている。

また、家庭背景や保護者の思いも大切にし、家庭との連絡を密にしながらの取り組みを継続している。不登校児童や家庭に事情のある児童への指導・支援について教職員の連携、学校体制として共通理解を図っていくことが課題となってくると言える。学校組織としての連携体制とそれを支える管理職の「意識」と「説明責任」が必要となっていると考える。

新渡日の児童については、学級の中だけではなく学校全体で理解と支援に努められるように取り組みを実践している。大阪市外国人教育協議会とも連携をとりながら情報など集めるようにしている。保護者への連絡ツールについては、環境面での課題が残っている。

③ 道徳教育の充実

道徳の全体計画および、各学年年間計画・各学年年間計画別葉を作成し、それをもとに計画的に取り組みを行っている。しかし、日常日々、起こる課題を解決するために、「人権の視点から見た「内容項目」や「人権教育教材集・資料」と道徳との関連の活用例も作成し（本校独自のもの）内容項目の指導に偏りやもれがないように配慮している。

内容項目については、年間計画で押さえているので、漏れはないと考える。しかし、偏りのない指導にしていくためにも、週案に教材名と内容項目をチェックしてきた。

学習の記録としては、各学年に配布されている「道徳ノート」の活用が中心ではあるが、指導の実態にそぐわない場合は独自でワークシートを作成しノートに張り付け学習の記録としている。

また、1年生は1学期の初めはノートに文字を綴ることが難しいこともあり、文章での考えの記録ではなく、色で自分の気持ちや相手の気持ちを表現するなどの工夫をしながら取り組みを進めていった。道徳ノートの活用法については、実践をしていく中で困ることも多い。本校の児童は、考えもしっかりと持つことができ、考えたことを文章化することもできる。その反面、付属のノートは、書く欄が少ないなど活用しにくい点が多く、改善・改良または、使用の必要性の可否を求めていきたいところではある。授業以外においても友だちのよさやがんばりを認めあえるような場づくりに努めている。絵画や作文など作品に対する表彰や読書通帳、たてわり班での活動などきめ細やかに行われていると言える。その積み重ねのあらわれとして、全校で友だちのがんばりを認め、エールを送る素直な雰囲気に育っている。今後も様々な表彰や学校行事などでのがんばりを全校でたたえ合う機会を設け、お互いの努力を認め合える場としていきたい。

学級においても、毎日の活動の中にお互いを認め合える場を設定したり、文章などの表現物においても、友だちのいいところを見つけ合ったり、頑張りを取り上げたりして共感することもできていることから日々の道徳教育の積み重ねによってお互いを認め合い、多様な考えも受け入れていこうとする態度が育ってきていると言える。学級での日々の積み重ねの重要性を認識し、今後も実践・取り組みを継続していく。

さらに、このような取り組みの情報発信として、学校だよりやホームページ、学年だより、学級だより掲示物などを発信ツールとして保護者や地域にも知ってもらえるように引き続き工夫していく。

④ 自尊感情・自己有用感・集団育成

校内アンケートや「学校にいくのが楽しい」については、保護者も含めて90%肯定的な回答になっている。このことは、学校全体において個々を大切にしながらの集団育成に力を注いできた結果であると言える。

また、学級づくりにおいて「しんどい子」を中心とした人権意識の高いなかまづくりの結果、ひとりひとりが「かけがえのない自分」であることを意識して、学校生活に臨んでいることも窺える。児童会活動においても、委員会活動・クラブ活動・縦割り班活動や学校行事などとさまざまな場面においての活躍の場における取組みや経験が、自尊感情および自己有用感につながり円滑な集団活動につながっていっていると言える。

友だちのがんばりや活躍を素直に認め、称賛できる児童に育っている。それは、児童の自尊感情を大切にしていこうとする学級での継続的な取り組みによるものや、その日々の取り組みから生まれるものである。また、縦割りでの上級生の様子や日々の教職員の姿が、共に「協働」していこう

「共感」していこうとするもので、教職員がこの意識を持って、日々の指導を怠ることなく続けていく必要がある。今後もお互いのがんばりを生かせる場づくりに全教職員で努めていくようとする。

⑤ 防災教育・安全教育と健全育成の推進

関係機関（警察・消防など）と連携した安全教育、防災教育に計画を立て、状況下取り組んでいくことができるものは形態をくふうしながら実施することができた。

地域との行事や取り組みにおいても今年はできなかつたことも多くあったが、細やかな連携とサポート体制はあるため子どもたちの健全育成を支えていると言える

その他、安全に関する取り組みとして、毎日の集団登校を実施し、班長を中心として安全な登校の確保や緊急時にも役立つ連携を大切にしてきた。このことは、安全・防犯意識を育てていくことにつながっていくと考える。集団での登校におけるルールやマナーについても上級生から教えてもらう共助のつながりの場となっていると言える。

さらに、現況においては取り上げるトラブルは発生していないが、ラインやSNSなどのトラブルや被害についての学習を低学年から取り組む必要があると思われる。ほとんどの児童がスマホやタブレットに毎日触れていることから、リスクが増えつつあることも事実である。日常生活の中にネット活用があるという実態から考えても、正しい使い方はもちろんのことリスクも低学年から具体的に教えていく必要性は出てきている。ラインでの「いじめ」についても、巷で取りざたされていることも鑑みて今後取り組んでいく必要があると言える。

⑥ 特別支援教育の充実

特別支援学級在籍児童の学校での様子は、ひまわり学級の担任とサポーターの方が、日々の記録を行っていることで、保護者との信頼関係が築けていると言える。

また、毎日の時間割の調整など特別支援教育コーディネーターや特別支援担当者の細やかな配慮において日々の活動をスムーズに進めていくことができている。

個別の支援計画書、指導計画支援書の支援を要する児童に対し、在籍児童の課題に対応した取り組みも行われ、めざましい成長が窺える。個別の教育支援計画書、指導計画支援書の支援を要する児童に対し保護者とも連携しながら作成しているためであると言える。

取り組み内容における「研修」は、児童理解を深めていくものと考え取り組んでいる。

学校全体で月に1回特別支援学級の児童に関する児童理解を行うようにしていくことについては、在職員会議や職員朝会の場を活用して取り組めている。ただ、この点に関連して、特別支援担当者以外にも複数の支援者が入る学年においては、クラスでの支援の方法などに関して、情報の共有化や伝達経路の確認など課題が多く残ると言える。保護者との連携や進め方は共通理解のもと、組織として進めていく必要がある。

⑦ 家庭学習や自主学習の支援

朝の学習やスキルアップタイムは、漢字・計算、計算カードなど基礎的な学力を身に着けていくことを目標とし、計画的に準備し行なわれている。前期・後期で40回以上実施していくことができた。このような支援により自ら進んで学習に向かう習慣・学校の雰囲気が構築されていると言える。学年での放課後学習・チャレンジ教室では、多くの児童が自ら進んで参加しており、学習意欲

は高まっていると見受けられる。各学年、復習を中心として学力の定着に努めている。

しかし、「家庭」での学習習慣の定着という面では、課題も残ると言える。学習の定着を図るためにまず、教室で学習環境を提供し、意識づけをしていくようにし今後も継続していくようにする。

さらに、日常はもちろんのこと、長期の休業中も学習の支援を行いほとんどの児童が自主的に登校して学習に取り組む状況が見られる。このような日々の取り組みにより、指標の肯定的な評価が児童は100%となっていると言える。(保護者においては98%) 今後も継続して取り組む上で、学級担任と習熟度別学習担当者とが連携しながら、学習内容や教材の準備・指導を進めていくようになる。使用するプリント内容を系統化するなど学力向上にむけて今後も継続していく。

⑧ 読書活動の支援

図書のバーコード化により、短時間での本の貸し出しが可能になったことで、短時間を利用図書室を利用する児童が増えた。図書支援員やボランティアの協力もあり図書開放は週に8回以上になっている。図書室の利用状況を見ても6月が85%、7月が172%、8月が117%、9月が120%10月が203%11月が280%12月が280%1月が76%と指標の目標数値を大きく上回っている。

図書委員会の自治的な活動も盛んで、図書室に来る楽しみを生み出す、工夫が行われ児童らはそれぞれ「読書通帳」を持っていて読んだ本の記録を綴っている。記帳するたびに自分の読んだ本をもう一度振り返りその時の感想を友だちに伝えている様子も見られる。読書通帳は学期ごとに集計し、たくさん本に親しめた児童には表彰するなど、読書への意識づけも行っている。新しい本も次々に揃えられ、行くたびに発見や楽しみがある図書室になっていると言える。

たくさん本に親しむ友だちが「図書館マスター」に紹介されるなど個人の喜びから全体への啓発活動へとつなげていくことができている。

学級では週に1回「読書タイム」を設定し取り組みは35回以上実施することができている。「振り返りカード」の質問には90%の児童が「本を読むことを楽しんでいる」と答えている。自主的に読書活動に取り組み楽しむことができていると言える。

⑨ 豊かなこころと豊かな表現

各学年の「校外学習・出前授業」の年間計画をもとに、コロナ禍であるが、可能な限り工夫して実施している。今年度からの取り組みである「キャリア・パスポート」の実践・活用にも計画的に取り組んでいる。実施した内容における児童の感想や、表現物を見てみると初めて知ったことへの感動や感心、それをもとにした自らの目標設定などさまざまな受け止めがあり、貴重な体験になっていることであると言える。指標である「体験学習の楽しさ豊かさを感じた」については十分達成できていると言える。

また、実践のジャンルも多岐にわたっており、本校の教育目標である「こころとからだをきたえたくましい子を育む。」という目標に即しながら、社会の仕組みや伝統的なことに触れる機会、人権教育に通ずるもの、情報社会に適応したものなど児童らに幅広い知識と出会い、そして体験を重視した活動を取り入れている。例えば、「租税教室」、「車いす体験」、「まが玉づくり」、「科学館への見学」「乗車体験」、「工業研究所」など「本物に触れる」という観点の中に、その道に特化した専門の知識や技能に触れることとともに、出会う方の考え方や生き方に触ることは、児童らにとって多様な生き方や考えに気づかせる大切な機会であると言える。

令和2年度 4年次 運営に関する計画

4年次 令和2年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と課題

また、社会の仕組みを知る機会となり、多様な生き方のモデリングにもなっていると言える。今後もより効果的な取り組みにしていく上で、指導者が持つておくべき考え方として、なぜこの取り組み（メニュー）を子どもたちに取り組ませたいのか課題意識を指導者がしっかりと持ち、事前・事後の取り組みも含め実践していくことが大切である。

また、校長戦略予算の使途の幅が広がったことも活用して、多様な出会いができるように戦略予算の活用法について検討していくようにしていきたい。

令和3年度 運営に関する計画 5年次

令和3年度の前期達成状況と後期に向けての改善点や課題

令和3年度 5年次 運営に関する計画

評価基準	4：目標を上回って達成した 2：取り組んだが目標を達成できなかった	3：目標どおりに達成した 1：ほとんど取り組めず目標も達成でき
------	--------------------------------------	------------------------------------

年度目標	達成状況
【視点 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
<p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の小学校学力経年調査(中学校チャレンジテスト)における標準化得点を、前年度より向上させる。 令和3年度の小学校学力経年調査(中学校チャレンジテスト)における正答率(得点)が市平均(府平均)の7割に満たない児童(生徒)の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 令和3年度の小学校学力経年調査(中学校チャレンジテスト)における正答率(得点)が市平均(府平均)を2割以上上回る児童(生徒)の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。 令和3年度の小学校学力経年調査(校内調査)における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童(生徒)の割合を、前年度より1ポイント増加させる。 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、全ての項目で全国平均以上ではあるが、(反復横跳び)の平均の記録を、前年度より1ポイント向上させる。 <p>学校の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 各教科において言語活動の充実を図ることで、児童の学力を高める。 英語活動・情報教育を通してコミュニケーション能力の充実を図ることで、社会の変化に対応する力を育む。 自ら設定した課題の解決をめざし、互いの意見を交流する中でより良い意見考え方を整理して発表する力を伸ばす。 体育科学習を核に仲間と豊かに交流し、運動の楽しさや喜びを味わい、健康の保持増進と体力の向上を図る。 健康に関する啓発活動を行い、自らの健康に留意し、病気にかかりにくい環境について考えることができる児童を育成するとともに、家庭を含めた健康への意識化をはかる。 自らの学習環境の整理や美化に自覚を持って取り組むとともに、望ましい生活習慣について考え実行する児童を育てる。 <p>《指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科において、児童の「読む」「書く」「聞く・話す」といった言語活動を活性化し、日々の単元テスト等で、低学年では80パーセント、高学年では70パーセントの正答率を確保する。 学級やグループで自分たちが立てた課題の解決に向けて、情報を集めたり協働学習で話し合いをしたりしながらより良い意見や考え方を整理して発表する。 	

令和3年度 5年次 運営に関する計画

- ・ふり返りカードで「ノートには学習の「めあて」と「まとめ」を書いていた」「課題について調べたり話し合ったりしたことを整理し、発表した」の肯定的な回答で80%以上を継続する。
- ・校内アンケートを学期ごとにとり、国語科・算数科・理科において「わかる」「努力できた」と肯定的に答える児童の割合を80%以上確保する。
- ・習熟度別少人数指導担当者を中心として学力向上推進委員会を年3回開き、基礎・基本の力を全校児童に付けるための指導を充実させる。
- ・イングリッシュモジュールタイム、イングリッシュタイムを年間120回以上行う。
- ・外国語科・活動の年間指導計画（1・2年は6時間、3・4年は35時間、5・6年は70時間）を実施する。
- ・ICTの活用環境を整備し、校内研修を実施する。
- ・情報教育の年間指導計画を点検改善し、ICTを活用した授業を年間20時間以上展開し、週案に記録する。
- ・年間指導計画をもとに、プログラミング授業（ビジュアル型）を年間低学年は2回、3年から6年は4回実践する。
- ・校内アンケート、「外や運動場で遊んでいる」の項目について肯定的な回答を80%以上にする。
- ・全学年スポーツテスト実施後の体力向上に自ら取り組む意欲を育む「振り返りカード（シート）」を活用する。
- ・全国体力運動能力調査の各項目を全国平均以上になるよう取り組む。
- ・保健だよりを月1回以上発行し、休業中の歯みがきカレンダーを実施し点検するとともに、学習状況調査「基本的生活習慣づくり」の項目を全国平均以上にする。
- ・「日ごろから良い姿勢に気を付けている」「給食前に手洗い・（消毒）を必ず行っている」を「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」の項目について肯定的な回答を80%以上にする。
- ・保護者が一緒に「食」について考える取り組みを1回以上行う。
- ・給食喫食時の事故防止のため食事前の献立の紹介時に声をかけるなど具体的な取り組みを継続する。
- ・安全点検の実施と保守（外注を除く）の実施を100%にする。毎日、清掃時間前に放送で意欲を高めるとともに、責任を持って分担場所の清掃を行うよう週に3回以上指導する。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p> <p>【言語力や論理的思考の育成】</p> <p>言語活動を活性化することで、言語力および思考力を育成する。また、「生きてはたらく言語力」を身に付けるために質の高い言語活動を具現化していく。</p>	
<p>指標</p> <p>各教科において、児童の「読む」「書く」「聞く・話す」といった言語活動を活性化し、日々の単元テスト等で、低学年では80パーセント、高学年では70パーセントの正答率を確保する。</p>	

令和3年度 5年次 運営に関する計画

取組内容②（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組：
主体的対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの推進）

【主体的対話的で深い学び】

筋道立てて考えること、論理的な思考力・表現力の育成をはかるため、アクティブ・ラーニングに継続して取り組む。

指標

- ・学級やグループで自分たちが立てた課題の解決に向けて、情報を集めたり協働学習で話し合いをしたりしながらより良い意見や考え方を整理して発表する。
- ・ふり返りカードで「ノートには学習の「めあて」と「まとめ」を書いていた」「課題について調べたり話し合ったりしたことを整理し、発表した」の肯定的な回答で80%以上を継続する。

取組内容③（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組：理数教育の充実
：学校力UPベース事業（習熟度別少人数授業など個に応じた指導の充実）

【個の習熟に応じた指導の実施】

複数の指導者で行う習熟度別少人数指導、TTを活用し、個々の児童に応じた指導を充実して基礎・基本の力と自ら考える力を育てる。

指標

- ・校内アンケートを学期ごとにとり、国語科・算数科・理科において「わかる」「努力できた」と肯定的に答える児童の割合を80%以上確保する。
- ・習熟度別少人数指導担当者を中心として学力向上推進委員会を年3回開き、基礎・基本の力を全校児童に付けるための指導を充実させる。

取組内容④（施策6 國際社会において生き抜く力の育成：英語教育の強化）

【英語教育の強化】

C-NET指導員と連携して音声指導を中心とした学習活動を展開し、英語活動を通して社会性やコミュニケーション能力を育てる。

指標

- ・イングリッシュモジュールタイム、イングリッシュタイムを年間120回以上行う。
- ・外国語科・活動年間指導計画(1・2年は6時間、3・4年は35時間、5・6年は70時間)を実施する。

取組内容⑤（施策6 國際社会において生き抜く力の育成：ICTを活用した教育の推進、プログラミング教育の推進）

【ICT関係機器、ソフトの活用】

ECより配置されるタブレットやデジタルTV等とともに、購入し整備した可搬式超短焦点型プロジェクターなどのICT周辺機器を活用し、「情報や情報手段の主体的な活用」「子ども同士の協働学習」が行えるよう支援する。

指標

- ・ICTの活用環境を整備し、校内研修を実施する。
- ・情報教育の年間指導計画を点検改善し、ICTを活用した授業を年間20時間以上展開し、週案に記録する。
- ・年間指導計画をもとに、プログラミング授業（ビジュアル型）を年間低学年は2回、3年から6年は4回実践する。

令和3年度 5年次 運営に関する計画

取組内容⑥（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成：子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実）

【体力向上への支援】

児童が意欲的に学習に取り組めるよう体育科の授業を工夫したり、みんな遊び等で毎日一回の外遊びを奨励したりし、自ら進んで運動する「運動好き」な児童を育てる。

指標

- ・校内アンケート、「外や運動場で遊んでいる」の項目について肯定的な回答を80%以上にする

取組内容⑦（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成：子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実）

【体力向上への支援】

水泳記録会、マラソン大会などの体育的行事や委員会活動と連携した運動集会を実施し、日常的な体力づくりに取り組む児童を育てる。

指標

- ・全学年スポーツテスト実施後の体力向上に自ら取り組む意欲を育む「振り返りカード（シート）」を活用する。
- ・全国体力運動能力調査の各項目を全国平均以上になるよう取り組む。

取組内容⑧（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成：健康に関する現代的課題への対応）

【健康な生活習慣の確立】

健康調べや校内アンケート等を通して児童に意識付けを行う。保健だより（月1回発行）、学校保健委員会（年1回実施）等、保護者に向けて感染症予防などの健康に関する啓発活動を行い、保護者の健康への意識を高める。

指標

- ・保健だよりを月1回以上発行し、休業中の歯みがきカレンダーを実施し点検するとともに、学習状況調査「基本的生活習慣づくり」の項目を全国平均以上にする。
- ・「日ごろから良い姿勢に気を付けている」「給食前に手洗い・（消毒）を必ず行っている」を「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」の項目について肯定的な回答を80%以上にする。

取組内容⑨（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成：食育の推進）

【食育】

区栄養教諭による栄養学習を年2回、全学年で実施し、児童の食に対する意識を高める。また誤嚥や食物アレルギー等の事故未然防止を徹底する。PTA主催食育講習会、などを通して保護者への啓発を行う。

指標

- ・保護者が一緒に「食」について考える取り組みを1回以上行う。
- ・給食喫食時の事故防止のため食事前の献立の紹介時に声をかけるなど具体的な取り組みを継続する。

取組内容⑩（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組：環境を守る意識の醸成）

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現：安全教育の推進）

【環境整備・校内美化の推進】

施設設備、校庭・遊具等、月1回程度の点検を行い、適切な環境整備、保持を行うとともに、児童が進んで校内美化に取り組む態度や物を大切にする心を育む。

指標

安全点検の実施と保守（外注を除く）の実施を100%にする。毎日、清掃時間前に放送で意欲を高めるとともに、責任を持って分担場所の清掃を行うよう週に3回以上指導する。

令和2年度 4年次 運営に関する計画

4年次 令和2年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と課題

①言語力や論理的思考の育成

○達成状況・進捗状況

国語科を中心とした各教科や領域等の学習活動において、日々児童の思考力・言語力が高まるよう工夫してきた。各学年に応じて「読む」「書く」「話す・聞く」という言語活動も十分取り組まれており、「生きてはたらく言語力」を身に付けさせることができた。1年を通じて制限のある中での学習活動であったが、ペアトークやグループワークなどをできる形で取り入れることで、身に付けた「生きてはたらく言語力」を活用する場面を設定することができた。これら身に付けた力は、児童の、友だちの考えを大切に聞く姿勢、自分の考えを自信をもって発信する力の礎となっている。また、「友だち俳句」作りや地域のお年寄りへの手紙、委員会のめあて作り、給食調理員さんへの手紙など、様々な場面でも発揮された。

各学年の単元テストでは、低学年で80%以上、高学年で70%以上の正答率を維持することができており、指標は達成することができたと言える。

▲改善点・課題

- 正答率が80%（70%）に満たない児童への指導及び支援
- 既習学習の定着のため、個々の児童に応じたプリント作成や手立ての工夫
- 全教員での研究内容の掌握・実践

②主体的対話的で深い学び

○ 達成状況・進捗状況

研究教科である国語科を中心に「主体的対話的で深い学び」を実現できるよう課題解決学習に取り組んでおり、児童は課題を見つけ見通しをもち、考え、話し合い、まとめ、振り返るという学習スタイルが定着している。そのため、一人一人ではもちろん、友だちや学級全体で交流して考えを広げたり深めたりすることも習慣化しており、その中で論理的な思考力を高めることもできた。また、視覚的な情報が有効な場面ではICT機器等も活用し、学習に取り組むことができた。

指標は、いずれも90%以上ため達成できた。

▲ 改善点・課題

- タブレットの効果的な活用と場面の共有化
- 教員のICT機器への慣れ

※指標についての提案

- ・学級やグループで自分たちが立てた課題の解決に向けて、ICT機器等を活用して、情報を集めたり協働学習で話し合いをしたりしながらより良い意見や考え方を整理して発表する。
- ・ふり返りカードで「ノートには学習の「めあて」と「まとめ」を書いていた」「課題について調べたり話し合ったりしたことを整理し、発表した」の肯定的な回答で80%以上を継続する。

③ 個の習熟に応じた指導の実施

○ 達成状況・進捗状況

担任と習熟度別少人数指導担当者等が連携して、課題のある児童について共通理解を図り、学習内容の定着が不十分にならぬように支援することができた。また、学力向上推進委員会を年3回行い、学校全体としての

4年次 令和2年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と課題

課題と個の課題を整理・把握し、全校児童に基礎基本の力が付くよう努めてきた。児童は概ね学習に対して意欲的・肯定的であり、主体的に努力する姿勢も育っている。

指標は、国語・算数・理科及び英語全てで95%以上であり達成できた。

▲ 改善点・課題

- 「わかる」という項目に対して否定的な児童への対応→3~6年生で該当者は国語2名、算数5名
- 否定的な児童の自己肯定感を高める工夫 (2学期末アンケート)
- 個別指導の時間の確保

④ 英語教育の強化

○ 達成状況・進捗状況

英語の教科化や経年テストでの英語科の実施など変化の1年であったが、C-NET指導員と連携して計画的に授業に取り組むことができた。イングリッシュモジュールタイムも計画に沿って実施し、その学年に応じて必要な力を受けている。児童は英語に親しみ、楽しく取り組むことができており、コミュニケーション力も高まっている。これは、学習アンケートに対して、英語が「楽しい」「好き」と肯定的に答えた児童が90%以上であったことからも伺える。

指標は、イングリッシュモジュールタイム・イングリッシュタイムについては現時点で各学年120回以上であるため、達成された。年間指導時数についても計画的に実施され、今後達成される見込みである。

▲ 改善点・課題

- 指導者の英語力の向上(研修)

⑤ ICT関係機器、ソフトの活用

○ 達成状況・進捗状況

教室にあるデジタルTVは、教科指導やイングリッシュモジュールタイム等で欠かせないものとして毎日活用してきた。また、タブレットを活用した取り組みやプログラミング的思考を使った学習のプロセスは、児童の主体的な学習や協働学習に役立っている。算数科における作図や、理科における「codey rocky」を用いたプログラムづくり、音楽科における旋律づくりなど、ビジュアル型プログラミングについても、校内研修を兼ねて実施することができた。

指標のICTを活用した授業はほぼ毎日行われており、プログラミングの時数においても達成できている。

▲ 改善点・課題

- プログラミング教育の研修(ビスケット、スクラッチ)
- 実施しやすい教科・単元の共有化
- 今年度整備された1人1台の学習用端末の活用
- プログラミングロボット購入の検討

⑥ 体力向上への支援

○ 達成状況・進捗状況

コロナ禍においても取り組めるよう工夫しながら体育の授業を行ったり、行事や学習の合間をぬって児童の遊ぶ時間を確保したりすることで、児童の体力向上に努めてきた。また、学級遊びの時間を作ったり、教師が共に遊んだり促したりするなどして、児童が外遊びを好きになるような努力も継続して行ってきた。その結果、積極的に外に出て遊ぶ運動好きな児童が育っており、校内アンケート「外や運動場で遊んでいる」の項目には、90%以上の児童が肯定的回答をしている。

▲改善点・課題

- 高学年児童の遊ぶ時間の確保
- 体育科の実技研修会の実施

⑦体力向上への支援

○達成状況・進捗状況

鉄棒週間に取り組み、普段はなかなか遊ぶ児童の少ない鉄棒を使って、回る感覚や支持する感覚、ぶら下がる感覚、逆さ感覚等を養うと共に日常的な体力作りを運動委員会と連携して行うことができた。また、水泳記録会に向けて得意な児童も苦手な児童も練習に取り組み、泳力も向上することができた。

指標は、スポーツテスト後の振り返りカードを全校で活用しているため達成できている。また、全国体力運動能力調査の各項目も女子の握力以外は全国平均以上となっており達成できている。

今年度は、例年のような体育的行事を行うことが難しい状況下であったが、そのような中でも、耐寒かけ足については、担任や委員会による働きかけ、マラソンカードの配布と活用などにより、目標をもって自主的に走る児童が多数見られた。また、なわとびジャンプ台の設置など児童の意欲を高める工夫をすることで、積極的に体力向上に努める様子を見ることができた。

▲改善点・課題

- 住居実態等で身に付きにくい能力を育成できるような「森小〇〇」というようなスポーツタイムの実施
- 秋の簡易スポーツテストの実施（50m走）

⑧健康な生活習慣の確立

○達成状況・進捗状況

コロナ禍において、全校朝会での指導や環境委員会のポスターによる啓発、養護教諭による保健だよりや保健室前掲示などによる情報発信などにより、児童は例年以上に手洗い・消毒を徹底して行うことができた。また、長期休業中の歯みがきカレンダーの活用や健康調べの定期的な実施などにより、児童の健康への意識や歯みがきをしようとする意欲の高まりが見られた。また、保護者への啓発も紙面やHPなどを用いて行うことができた。学級の指導、保健指導など日々の継続的な指導の結果、ほとんどの児童に基本的な生活習慣が身についてきているが、個人差があることは否めない。学級では朝の会などで、持ち物などの点検や清潔検査を継続的に行うことにより、持ち物を自分自身でそろえることや清潔に生活していくことをこころがけていくことなど意識が高まりつつあると言える。学校全体で実施している「健康調べ」では、ハンカチ・はな紙・つめ・歯みがき・姿勢の5項目について調査をしているが、健康調べの結果も全学年ともに90%以上できているという結果が出ていることから見ても、健康的な生活をしていくという意識が見られる。新型コロナ感染予防対策からも健康なからだづくりが大切なことから手洗い・食事・運動についてHPや学校だより、長期休暇の「生活表」の項目にも入れ啓発を行ってきた。さらに、保健指導、保健だよりにおいても、本校の目標である「早寝・早起き・朝ごはん」を取り上げ児童生活実態に照らし「考えさせる」実践していくように努めてきた。

4年次 令和2年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と課題

このように、いろいろな場面を活用して、生活習慣の向上の意識づけに取り組んでいる。保護者にも「振り返りカード」の記入などを通して、わが子の学習・生活両面について共に考える機会にしている。保護者のコメントの中に、子どもへの称賛のことばが学期を経るごとに増えるのを感じ子ども、保護者、学校が共に子どもたちの成長を支えていこうと協力できているからだと言える。今後も「振り返りカード」を活用して学校と保護者とが子どもたちのよりよい成長に向けて理解し協力し合えるようにしていくよう努める。

指標は、保健だよりの月1回以上の発行と歯みがきカレンダーの実施・点検により達成できた。またアンケート項目についても80%以上で達成できている。

▲改善点・課題

- 良い姿勢の必要性を訴える（個人差あり）
- 服装や外見（爪、髪の毛）など気になる児童及び保護者への声掛け

⑨食育

○達成状況・進捗状況

食物アレルギー事故未然防止のため、年度当初に関係職員で対応会議を行い、共通理解を図った。また、計画通りエピペン研修を行うとともに、保健だよりや児童朝会での講話を通してアレルギー児童への理解を促す情報発信も行ってきた。日々の献立については個別対応献立表を活用し、管理職・担任・養護教諭等複数で確認することで安全に配慮した食育が実現できている。食についての指導は、各教科や領域との関連、給食だよりや食育だよりの発行・活用により実施できた。また、給食週間の取り組みとして、調理員さんへの手紙を書いたりその仕事内容を知らせる取り組みを行ったりすることで、感謝の気持ちや食への意識を高めることができた。

指標の一つである食育講習会は、今年度はコロナ禍により実施していない。アレルギー事故防止のための具体的取り組みは確実に行われた。

▲改善点・課題

- エピペンの使用方法の研修（4月実施予定）
- アレルギー対応の共通理解（給食時・緊急時）

⑩環境整備・校内美化の推進

○達成状況・進捗状況

毎月の安全点検と、それをもとに修繕の見通しを校内掲示板に載せることで職員の共通理解を図り、児童が安全に生活できるよう環境づくりを行ってきた。校外についても、芝刈りや正門付近の清掃など管理作業員を中心に行うことができている。清掃時間には高学年が真剣に取り組むことを見本として、児童は積極的に自分たちの学校をきれいにしようという意識をもって取り組んでいる。また、環境委員会による取り組みを通して児童の校内美化に対する意識を高めることができた。

指標は、安全点検を100%実施できており達成できている。また、環境委員会による毎日の放送と週3回以上の指導により達成できている。

▲改善点・課題

- 特別教室使用後の清掃

- ④清掃用具の安全性・使いやすさ
- ⑤芝生に関する作業への意識

5年次 令和3年度目標の前期達成状況や取組の進捗状況の結果と課題

令和3年度 5年次 運営に関する計画

評価基準	4 : 目標を上回って達成した	3 : 目標どおりに達成した
	2 : 取り組んだが目標を達成できなかった	1 : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>視点 【その他】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>1 全教員が年1回以上研究授業を実施し、研究充実のため、研究支援事業等の大阪市の施策や外部団体の学校支援事業を活用する。</p> <p>2 全体計画・各学年年間計画のよりいっそうの充実をめざし、PDCAサイクルに則り検証する。</p> <p>3 校内研修を活性化し、今日的な課題に対応した校内研修を行い、相互研修を深め、児童理解や実践力を高める。</p> <p>4 幼保小、小小、小中等の異校種間連携を継続し、幼保小中一貫した「学び」をめざす。</p> <p>5 きめ細やかな情報の発信と情報の受信を進める。</p> <p>《指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会や授業研究会に積極的に参加するとともに、全教員が年に1回以上授業研究を実施し、教員アンケートで80%以上の教員が資質の向上を実感することができる。 ・年間授業時数を確保し、週学習指導計画をもとに各教科・領域の授業時数を学期ごとに集計し計画的に実施する。 ・今日的課題に即した講師を招聘した研修会を長期休業中に実施する。 ・英語指導や道徳等外部研修等で得たことを伝達する研修を年間一人1回以上実施する。 ・若手育成や実習生等への支援指導を組織的に行う公開授業を実施する。 ・実施しているスタートカリキュラムを充実させ、就学前施設との円滑な接続を図る。 ・中学校区4小学校や進学中学校の研究授業等の相互参観や、進学中学校の行事や授業参観に年間5回以上参加し、「互いを知る」場と位置付ける。 ・6年スポーツ交流会や、進学中学の見学、全校集会（ウキウキフェスティバル）、園児への絵本の読み聞かせ等、城陽校区の連携として、幼小、小小、小中による類似の体験活動の実施や合同での実施を年間5回以上行い交流を深める。 ・各行事実施後などで児童・保護者・地域等へのアンケートを実施し、運営に関する計画や学校評価に生かし、PDACサイクルを行う。 ・「保健室だより」「給食だより」「学校だより」や「学年だより」を各月1回発行する。校内アンケートで、「学校が適切に情報を発信している」の項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」との答えを85%以上にする。 	

令和3年度 5年次 運営に関する計画

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① (施策8 施策を実現するための仕組みの推進：若手教員の指導力向上と校内研修の支援) 【授業研究】 <u>授業研究会や研修協議会を通して、教員の資質の向上を図る。</u>	
指標 研修会や授業研究会に積極的に参加するとともに、全教員が年に1回以上授業研究を実施し、教員アンケートで80%以上の教員が資質の向上を実感することができる。	
取組内容② (施策8 施策を実現するための仕組みの推進：検証・改善サイクルの充実) 【学習指導計画・シラバス】 <u>年間学習指導計画にそって各教科・領域その他の教育活動の時間を確保し充実できるよう工夫する。</u>	
指標 年間授業時数を確保し、週学習指導計画をもとに各教科・領域の授業時数を学期ごとに集計し、計画的に実施する。	
取組内容③ (施策8 施策を実現するための仕組みの推進：若手教員の指導力向上と校内研修の支援) 【講師招聘研修・伝達研修の実施】 <u>講師を招聘した研修会や長期休業後の伝達研修会を実施し、情報の共有化を図るとともに、育ちあう組織を構築する。</u>	
指標 ・講師を招聘した研修会を長期休業中等に実施する。 ・英語指導や道徳等外部研修等で得たことを伝達する研修を年間一人1回以上実施する。 ・若手育成や実習生等への支援指導を組織的に行う公開授業を実施する。	
取組内容④ (施策8 施策を実現するための仕組みの推進：小中一貫教育の充実) (施策4 全ての基礎となる幼児教育の普及と向上：) 【幼保小中一貫した教育の推進（教員の交流）】 <u>小1プロブレム、中1ギャップの未然防止のため、小中連携担当者会やコーディネーター会を中心として進学中学校等との連携を効果的に図る。</u>	
指標 ・実施しているスタートカリキュラムを充実させ、就学前施設との円滑な接続を図る。 ・中学校区4小学校や進学中学校の研究授業等の相互参観や、進学中学校の行事や授業参観に年間5回以上参加し、「互いを知る」場と位置付ける。	
取組内容⑤ (施策8 施策を実現するための仕組みの推進：小中一貫教育の充実) (施策4 全ての基礎となる幼児教育の普及と向上：就学前施設における読書活動の推進) 【幼保小中一貫した教育の推進（幼児・児童・生徒の交流）】 <u>小1プロブレム、中1ギャップ解消のため、幼児や児童が交流できる教育活動を実践する。</u>	
指標 6年スポーツ交流会や、進学中学の見学、全校集会（ウキウキフェスティバル）、園児への絵本の読み聞かせ等、城陽校区の連携として、幼小、小小、小中による類似の体験活動の実施や合同での実施を年間5回以上行い交流している。	
取組内容⑥ (施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援：保護者や地域住民に開かれた学校園の運営) 【開かれた学校運営】 学校の教育方針や日々の子どもたちの活動を紹介したり、学校評価やアンケート結果等の各データを公表したりして情報発信に努めるとともに、保護者地域の声を真摯に受け止め教育活動の改善にいかす。	
指標 ・各行事実施後に児童・保護者・地域等へのアンケートを実施し、運営に関する計画や学校評価に生かし、PDACサイクルを行う。 ・「保健室だより」「給食だより」「学校だより」や「学年だより」を各月1回発行する。 ・学校HPの配信を週3回以上行う。校内アンケートで、「学校が適切に情報を発信している」の項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」との答えを85%以上にする。	

4年次 令和2年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と課題

① 授業研究について

- 国語科の授業研究においては、全学年、教材文の分析や学習指導計画を基に、指導案検討会と本時の学習についての検討を行い、視写の部分や構造化、ふり返りの場での「定義づけ」について具体的に意見交流を行い、全教員が教材内容を把握し共通理解のもと実施した。
研究討議会では、講師先生より、言語力、思考力の育成や学習の積み重ねの必要性など、忌憚のない意見や具体的な指導をいただき研究の方向性を確認することができた。後期の授業研究については、コロナ禍のため講師先生を招聘しての研究討議会は、実施できなかったが、これまで蓄積された「森之宮の国語」の継続と令和3年度の区研究発表校として紀要のテーマであるふり返りの場での「定義づけること」の授業実践を終え、成果と課題を明らかにすることができた。
- 国語科以外の公開授業では、指導案を作成し音楽科や理科、プログラミング学習、日本語学習等それぞれの教員が課題をもち全員が授業実践を行い学び合うことができた。また、新任教員2年次研として、音楽科と体育科保健領域の授業実践とオンライン研修会に積極的に取り組み資質の向上を高めることができた。
- 研修会や授業研究会に積極的に参加するについては、例年本校では学校日誌の記録より教育センターを初め会場校等の研修・研究会に年間延べ160回ほどの出席率である。しかし、本年度はコロナ禍のため外部の研修会等は中止となったため、e-ラーニングやTeamsによる研修会や校内国語科実践研修会に積極的に参加した。教科・領域の総合研究発表会については、研究冊子を通して自己研鑽に努めることができた。

以上のことから、コロナ禍の中でも指標としている、研修会や授業研究会に参加し全教員が1回以上授業研究を実施するについては、80%以上の教員が資質の向上を高めることができたことを実感し、指標は達成している。

課題については

- ▼ 本校の子ども像の1つである「深く考える子」をめざし、令和3年度の区研究発表校を機会として国語科を通し「思考力」の育成に取り組む。また、それぞれの教員が課題としている教科・領域の授業研究に取り組む。
- ▼ I C T活用とプログラミング教育を始めとした授業の在り方に取り組む。
- ▼ 研究授業や公開授業に参加できやすいように日程調整をし、共に学び合える職場になるようにする。

② 学習指導計画・シラバスについて

- 各教科・領域の学習指導計画については、コロナ禍で学校休業となり授業時数減少のため、教科書や大阪市小学校教育研究会から示された年間指導計画の重点化を図り計画的に教育活動を進め「学びの保証」に努めた。
- 授業時数の確保については、4・5月は学校休業となり6月より通常授業実施となった。そのため、2年より6年まで火・木の授業時数を増やすこと。土曜授業を年間3回（6年は6回）実施すること。始業式・終業式行事の精選を行ったりし、平常授業時数の確保と共に計画的に進めた。
- 週末には、担任と教科担当者との打ち合わせを綿密に行い、日々の生活や学習を大切にしてきた。

学年記録簿のノートについては、配慮する児童を中心として、学力と生活の変容や指導・支援の在り方を記録し、見通しをもって指導に当たった。

- ・ 指導要領改訂に伴い、特別活動（学校行事・児童会活動・学級会活動・クラブ活動）や人権教育を基盤とした特別の教科道徳科、総合的な学習の時間、情報教育等12の教科・領域については、森之宮小学校独自の年間指導計画のファイル（緑色）の加除訂正を行った。

結果、年度末の各教科・領域の見込み授業時数は計画通りで、学習内容についても未実施のない状況であり「学びの保証」はできている。そして、全ての教育活動においても、P目標達成 D実践 C評価 A改善のサイクルをもとに実施している。これらのことから、指標は達成できていると言える。

課題については

- ▼今後も週学習指導計画記録簿に、道徳科は価値項目、ICT機器を活用した授業内容、プログラミング教育等について記録する。
- ▼学年記録簿のノートには学級経営案をもとに学級の諸問題や解決するための指導の内容、学力をつけるための個別対応の取り組みを記録する。
- ▼領域等の主任や担当者を中心とし森之宮小学校独自の緑色の年間指導計画の改定版をもとに実施する。

③ 講師招聘研修・伝達研修について

- ・ 本校の研究教科である国語科については、同じ講師の招聘により、本校が築いてきた授業スタイルを基に、基礎・基本の指導の在り方や、今後継続することと課題とすることを指導いただき共有することができた。
- ・ 講師招聘研修会については、国語科の研究に沿った講師を招き実践的な研修会を実施し、大変有益な研修会であった。
- ・ 人権教育に関わる仲間づくりや平和学習、性に関する教育等の取り組みでは、実施案の提案時や報告後、また職場で、ワンポイントの助言や資料紹介があり、日常の教育活動の中で指導の在り方や児童の実態について伝達することにより育ち合う職場となっている。
- ・ 新任教員2年次研として実施した音楽科の授業研究については、OJT授業教育指導員や校内の先生方より指導について講評を得、資質の向上を高めることができた。また、養護教諭による体育科・保健領域の授業を参観した教員は実際の指導をみることによりそのことが研修の場となった。
- ・ 実習生への指導については、担当教諭を中心に、全教職員で分担し講話や公開授業を実施し、学校組織として実習生の育成を行うことができた。

コロナ禍の中であり指標については十分とはいえないが可能な限り実施することにより、指標を達成することができた。

課題については

- ▼国語科の授業研究や研修会に来ていただく外部講師については、国語部や教育センター等にもお願いし、これまでと違った視点からの示唆を得ることも必要と考える。
- ▼今日的課題であるICT教育関係のteamsやオンラインの研修会を実施する。
- ▼これまで積み上げてきた「森之宮の国語」を継承すると共に、来年度の城東区教員発表会（1月19日）に向けて、計画的に進めるために年度当初より役割分担や授業日程を早急に決めるよう

に努める。

④ 幼保小中一貫した教育の推進（教員の交流）について

- ・ 小1プロブレム未然防止のため、管理職や特別支援担当者で本校就学予定の配慮を要する園児（森之宮保育園・北中道幼稚園・中浜幼稚園・城東ちどり保育園・城東よつば保育園）の参観や言葉の獲得等の情報収集をするため聞き取りを早期に行った。そして、小学校生活が円滑にスタートできるよう、校内でと情報の共有化を図ることにより、次年度の指導の在り方に見通しをもてるようにした。
- ・ 教員による小中連携については、6年担任城陽中ガイダンスや城陽中養護教諭との連絡会を行った。例年行っている城陽中校区4小の教務主任連絡会、生活指導連絡会、スポーツ交流会打ち合わせ会は、本年度はコロナ禍のため実施できなかった。

令和2年度 4年次 運営に関する計画

4年次 令和2年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と課題

課題については

▼本年度はコロナ禍により実施できなかった進学中学校や中学校区4小学校との行事や研究授業の相互参観、保幼小連携の会で得た情報は学校や子どものようすを「互いに知る」場として貴重であり、コロナ禍の状況を判断し可能な限り実施する。

⑤ 保幼小中の園児・児童・生徒の交流について

これまで行われた交流については下記の通りとなっている。

- ・小中の交流については、城陽中の土曜授業で行われた授業参観や部活動見学には、見学希望の6年生児童と保護者が参観し、学校の様子を知る場となっている。
- ・例年6年城陽校区小小の交流として、鳴野小、中浜小、城東小、森之宮小の4校で、会場校を決めスポーツ（ドッジビー、長縄跳び）交流会を実施し、中1ギャップの軽減を図っている。
- ・保幼小との交流については、全校集会の「わくわく班ウキウキフェスティバル」に森之宮保育園児と北中道幼稚園児を招き、お店のゲームを通して温かい交流を図っている。
- ・保幼小連携として、森之宮保育園児や北中道幼稚園児には、5・6年生による読み聞かせや、1年生による持ち物や学習の紹介を行っている。また1年児童と北中道幼稚園児の交流会を実施している。「わくわく班ウキウキフェスティバル」（全校集会）での交流を行っている。このことにより、園児が高学年児童や1年児童のやさしさに触れ、安心感や期待や意欲をもつことができるよう小1プロブレム未然防止に努めている。
- ・同じ教育実践については、小中連携コーディネーター会やスキップで行事について情報交換を行っている。

課題については

▼ 以上5点については、コロナ禍のため実施が不可能な状況であったが、どの取組についても大阪市教育振興基本計画が示している小1プロブレム、中1ギャップ解消のための連携活動であり実施が求められている。次年度はコロナ禍の状況判断により可能な限り実施を行う。

⑥ 開かれた学校運営について

- ・ 学習参観、行事後にアンケートを実施し、アンケート集計結果の配布（予定）やHPで配信し、保護者相互の意見や感想の交流を図っている。また、学校に対しての要望や意見は真摯に受け止め、可能な範囲で取り入れ、教育活動の改善に努めている。
- ・ 生活や学習についての学校評価アンケートは、2回実施し、保護者から肯定的評価が得られている。学校評価アンケートの「学校が適切に情報を発信している」の項目の肯定的評価は、98%であり指標の85%を達成している。
- ・ 生活と学習のふり返りカードは、6月より通常授業再開となり、7月、9月、11月、2月の4回実施し、全学年学級活動の時間に位置付け、指導をもとに行った。
- ・ 学校HPでは、臨時休業中には大阪市教育委員会の通達や案内について学習動画の配信をはじめとして、LINEによる相談窓口の案内・学習支援の図書カード配布について・テレビ大阪のサブチャンネル「学習動画の公開」について・登校日・学校園再開について・短縮授業について・一時預かり事業について・短縮授業について・給食の品数を減らすことについて・6月1日からの学校再開について・感染症拡大防止について学校HPを通してきめ細かく保護者に知らせた。
- ・ 玄関や学年掲示板、廊下等には学年や学校の取り組みに関する作品や写真等の展示や掲示をし、児童の頑張りやよさを伝えている。学校HPの配信にも努め、2月12日のアクセス数は15232である。（令和元年度2月13日時点のアクセス数は8000）また、「学年だより」「学級通信」「学校だより」「保健だより」「給食だより」学校行事の中止や変更に関することや児童の安全に関する等の配布物をきめ細かく行い、子どもを中心に据えた学校教育の取り組みを地域・保護者に伝えている。

課題については

- ▼学期末のふり返りカード実施の際には、保護者が感想や励ましの言葉、家庭での関わりを書くよう依頼し、家庭と学校が連携して児童のよりよい生活と学習習慣作りに取り組むようにする。
- ▼「ふり返りカード」の項目にあげている基本的な「生活と学習習慣づくり」は、コロナ禍の中では自分の命を守るためにも大切なことである。このような時にこそ、保護者によりよい習慣作りに対する意識の継続を図ると共に、家庭生活の在り方を見直すようにさせる。
- ▼指導者は運営の計画の取り組み内容や学級経営案をもとに、主体的な集団を育て、一人ひとりの児童が活躍できるような取り組みを行う。そして、学年だよりや学級だより、「学校HP」を通して、保護者が学校に対して信頼を得るような情報を配信する。
- ▼学校運営方針に則り、公務分掌や運営に関する計画、その他校内各種の役割分担の仕事の責任を果たし、協力体制のもと特色ある森之宮小学校の教育活動を進める。

5年次 令和3年度目標の前期達成状況や取組の進捗状況の結果と課題